

第二

う  
號  
作  
戰

(北緬防衛ヲ含ム)

自 昭和十九年三月十五日  
至 同年八月十五日

(イ)

兵要地誌概要

師團ノ作戦地ハ印緬國境ヲ跨キ進攻方向ニ対シ幾多ノ山險峻嶺  
 及大ナル水脈連亘シ人煙稀少ニシテ交通網乏シク望千古不滅ノ密  
 林之ヲ覆ヒ真ニ自然ノ防禦ヲ構成シアリ之カ規模ト景觀ト悠大ナ  
 ル哉ニ日本アルプス横断モ到底之ニ比肩スヘクモアラス  
 如フルニ緬甸特有ノ天候氣象ノ交感ハ更ニ之カ條件ヲ悪化シ之ヲ横  
 断突破シ敵ノ意表ニ出テテ一舉ヲゴヒマシ急襲ニ成功スル為ニ將  
 兵ノ強軟ナル内体及持久不屈ノ意志ト追隨ヲ許サル烈々致斗ノ  
 攻重精神ト相俟ツテ至大ナル補給熱意ト企画トヲ要請スルモノト  
 去フベシ

二 山系及水系 (附圖ヲ五兵要地圖参照)

ノジユビ一山系

最高三千呎南北ニ走リ其幅員七七八〇料ニシテ内ニ幾多ノ隘性小何  
 川ヲ包蔵シ橋梁ノ保持困難ニシテ我攻勢準備特ニ補給ニ及ホシ  
 タル交感ハ大ナルモアリ  
 多クシヤゲルニテ敵機ニ対スル遮蔽機動給水爲ノ河川ハ我ニ便益ヲ  
 與ヘタリ

特ニ最モ大ナル努力ヲ要シタルハ補給ノ爲ノ交通路(軌道<sup>軌本</sup>自動車道)ノ啓用ニシテ  
我カ作戰発起ノ時期ニ大ナル影響ヲ与ヘタルモノナリ

## 2. パトカイ山系

右突進隊正面ニハ最高一萬二千呎ノ高峰遮リ中央進隊ノ進路國境ニハ  
八千呎ノモトレノ嶮ヲ越ユルヲ要ス

本山系ハ南北ニ明瞭ナル四ツノ山系ヲ起伏重疊ス即チ

(一) 國境線脈(平均七千呎―最高一萬二千呎)

(二) ラニエル河東側脈(平均五千呎)

(三) ラニエル河西側高地脈(平均七千呎―最高八千呎)

(四) コヒマール・インパール道西側脈(平均七千呎)

右四ツノ山系ノ岨幾多ノ支脈錯綜シアリ

3. 攻略目標タルコヒマハ標高五千五百二十呎ノ位置ニアリ

4. 山系ハ急峻ナル傾斜ヲ以テ幽谷ニ連テリ全カ多クハ不鋳ノ密林ヲ  
以テ蔽ハル

其二 水系

主ナルモノ左ノ如シ

チンドウ多河、ラニエル河其他幾多大小無数ノ河川我進攻路ニ直角ニ横

タル

乾季ハ水涸レ給水ニ不便雨期ハ氾濫シ濁水流木ヲ放流シ渡河交通ニ大

障礙ヲ与フルモ之ヲ利用スル補給路トシテ價値ハ又偉大ナルモノアリ

特ニチンドウ河ハ、ラニエル河ニ於テ軍ノ主要ナル唯一ノ兵站

線トシテ軍幾万ノ將兵ヲ救ヒタルモノナリ

同河ハボマリシ附近迄雨期小型汽船ノ溯江ヲ許ス雨期河幅六ノ八百

流速三ノ六米乾季節固ノ渡河正面河幅約三ノ四百米ニシテ流速

一米内外ナリ

2. 其他ノ小河川ハ我機動爲大ナル障碍ヲ爲セリ

其三 天候 氣象

特ニ注意ヲ要スルハ雨期及乾季ノ交感トス

作戰地ニ於ケル雨期ハ五月ニ至リ稍々増加シ山地ニ於テハ五月ハ

殆ト一日一回ノ豪雨アリ

七月最盛一八九月ニ至リ減シ十一月ニ到リ全ク降雨ナシ

雨量ハ極メ多シ山岳地帯ハ霧ヲ発生ス

山系中ノ交通路ノ多クハ山腹道ナルヲ以テ崖壊レ倒木頻発シ交通特ニ補給通信ニ及ス事大ナリ

2. 雨期ト疾病ノ発生

マラリヤ、下痢等体力ノ消耗ニ伴ヒ若ト全兵團將兵之ニ罹病シ師團ノ戦力全ク低下スルニ到ル

3. 乾季ハ給水ニ顧慮ヲ要シ作戦時期トシテハ暑熱ノミニシテ適当ナル時期トス

其ノ四 交通網(参照附圖第五兵要地図)

1. 交通網情報要圖附圖第五ノ如シ

2. 作戦地ノ一般道路ハ補給ノ見地ヨリ見ルニ極ク貧弱ニシテ峻々高山嶽地帯ノ山腹ヲ縫ヒテ構築セラレ戦利用スベキモノハ急造ニシテ雨期崩壊シ補給ノ中絶ヲ來スコト大ナルノミナラズ素質不良ニシテ人馬車輛ノ坂路斜面等ニ於テ滑走スルコト頻繁ナリ

一般ニ行進待避不便ナリ

3. 防空顧慮上遮蔽ハ概シテ良好ナリ